

◆入間東部地区 消防議会開催

去る、9月29日、入間東部地区消防本部（ふじみ野市苗間）において、平成20年第2回入間東部地区消防組合議会定例会が招集されました。本会議では、平成19年度入間東部地区消防組合一般会計歳入歳出決算認定などの議案が提案され、審議の結果、すべて原案通り可決されました。

平成19年度入間東部地区消防組合決算は、歳入総額が28億4484万円、歳出総額が27億8331万円で、差引6153万円でした。三芳町からは、常備消防費分として負担金4億6693万円を、非常備消防費負担金として2171万円を

抛出しました。

平成19年度は、従来型より優れた水槽付きポンプ車等を更新しており、都市化の進展に伴い複雑・多様化する様々な災害に対応できるものと期待される。

●消防本部広域化 について

今議会での一般質問では、消防本部の広域化が大きなテーマでした。

平成18年6月「消防組織法の一部を改正する法律」が施行され、それを受けて平成19年度に埼玉県は「消防広域化推進計画」を策定。それによると現在、県内36の消防本部を平成24年度には7本部に統合し、消防の広域化を実現しようというもの。

当入間東部消防組合消防本部

は、埼玉県消防広域化第3ブ

ロックに位置づけられ、川越地区消防本部、埼玉県南西部消防本部、比企広域消防本部、坂戸鶴ヶ島消防本部、西入間広域消防組合消防本部と一つになる計画。平成20年度からは広域化対象市町村による「消防広域化推進計画」を作成する。

現在の自治体消防の組織ができて60年経過するが、都市化が進む今日、当時では予期しなかった災害が起こりうるわけで、その延長線上での広域化は理解できる。しかし、「住民の生命・身体・財産を守る」自治体消防の基本的な視点を大前提に、今後各市町村が慎重に協議・検討していく必要があると考える。

◆埼玉県町村議会議員 研修会開催

研修会開催

埼玉県町村議会議員研修が、10月17日、熊谷市の「さくらめいと」で開催された。町村議会会長の秋坂会長（三芳町議会議長）が、冒頭主催者として挨拶をされた。

講演は、政策研究大学大学院教授の飯尾潤氏により、「激動の日本政治と地方自治の課題」という

テーマで行われた。

衆議院選挙が間近に迫っている中、日本政治の歴史と政局にふれた後、日本政治の将来と地方自治の課題についてお話をされた。

特に、これからは改革派の首長の時代ではなく、地方議会の時代であるという。そして次のように訴える。

『本場に予算や政策を決めるのは議会であり、首長にできなくて議会にできることが一つある。それは反対すること。予算や政策には反対賛成の両意見がある。』

だから、与党や野党は地方議会にはないほうがいい。与党になって首長の味方をするのが決まったら議論ができない。首長と議会は別の選挙で選ばれているから、首長を選挙で応援してもしなくても議会での議論は別である。そうす



挨拶をする秋坂会長



地方自治の将来に熱く語る飯尾氏